

【 相 撲 】

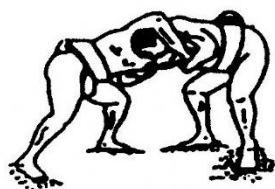
1 参加規程

- (1) 団体戦 各県3チームとする。 選手5名（2名以上）（先鋒・中堅・大将・補員2名）
- (2) 個人戦 各県上位8名

2 競技規則

- (1) 時間は、3分を限度とする。
- (2) 禁じ技は、(公財)日本相撲連盟の「競技会規定及び審判規定」による。ただし、次の禁手（技）を加える。反則した場合は取直しとし、再度した場合は審判員の協議により負けとする。

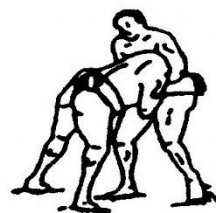
○鴨の入れ首 ○首を脇の下に入れる ○さば折り ○かわずかけ ○反り技
○相手の首をきめる ○極め出し・極め倒し



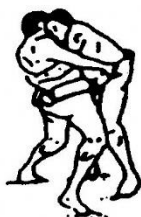
鴨の入れ首



頭を相手の胸より
下に入れる



頭を相手の脇の下
に入れる



さば折り



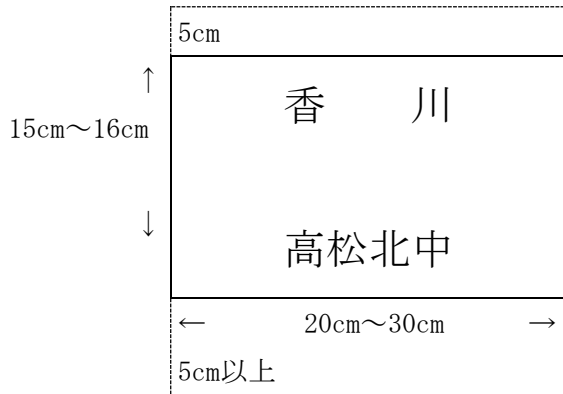
河津掛け



居反り

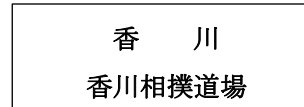
- (3) 交替選手が出場する場合は、本部の承認を要し、団体戦に限り前選手の位置を継承する。ただし、交替した選手は、再び出場することはできない。また、個人戦に欠場した者は団体戦も欠場とする。
- (4) 立合は主審のかけ声にて立つ。待たはなしとし、1回目で必ず立つこと。双方とも両手をついて立ち合うこと。（主審の構えての声で両選手が両手をつき、主審が「引きますよ」と声をかける。続いて主審の「ハッケヨイ」で立ち合う。）
- (5) 競技の審判に対する異議申立ては、担当の審判のみに許される。一度勝ち名乗りを上げて判定した後は、一切異議の申立ては認めない。
- (6) 選手は呼出しに応じて土俵に上がり、土俵の内側において立礼若しくは塵浄水を行い、土俵中央に進み、蹲踞して主審の合図により仕切にはいる。
- (7) 服装はまわし及びアンダーパンツ以外を身につけてはならない。
※ アンダーパンツをつかんではいけない。勝敗に影響する行為があった場合は、審判団の協議とする。
- (8) 負傷者は、包帯、サポーター、足袋等を身につけることができる。但し、支柱入りのサポーター、その他相手に危害を及ぼすおそれのあると認められるものについては、この限りではない。
- (9) 外部指導者（コーチ）・部活動指導員は、当該校の校長が認めた者に限る。
- (10) 手・足のつめを端正にすること。

- (11) タオルを準備しておくこと。
 (12) ゼッケンの規定は、次のとおりとする。



- ※ 字画の太さは、1cm位とする。
- ※ 輪にしないで、まわしにはさむようにする。
- ※ 必ず県名を入れる。
- ※ 下地は単色の布とすること。

◎地域クラブ活動等ゼッケン (例)



3 競技方法

(1) 団体戦

- ① 団体予選 (各県1位チームと他県の2位・3位チームによりリーグ戦) を行い勝率、勝ち点で上位8チームを選出する。もし同率、同点となった時は、代表決定戦を行う。

(3チームの場合、トーナメント法で組合せ抽選)

- ② 上位8チームで決勝トーナメントを行う。

(2) 個人戦

予選リーグを行い、各グループの上位2名が決勝トーナメントに進出する。

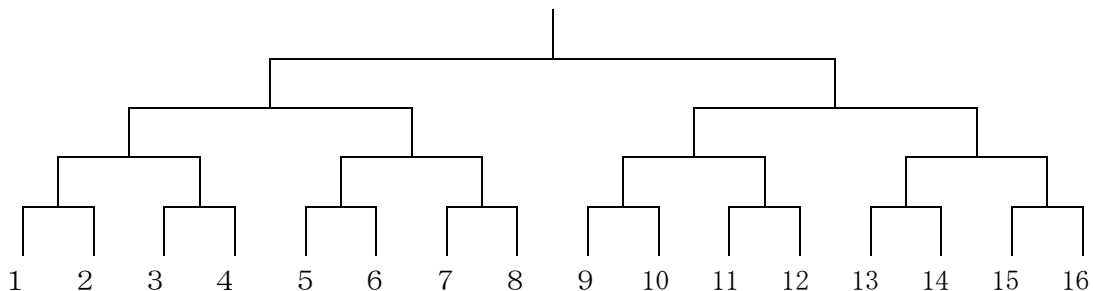
- ① 8グループによる予選リーグを行う。(県名(A~D) - 順位)

aグループ	A-1	B-3	C-6	D-8	eグループ	A-2	D-4	B-5	C-7
bグループ	B-1	C-3	D-6	A-8	fグループ	B-2	A-4	C-5	D-7
cグループ	C-1	D-3	A-6	B-8	gグループ	C-2	B-4	D-5	A-7
dグループ	D-1	A-3	B-6	C-8	hグループ	D-2	C-4	A-5	B-7

※ グループ内で勝率が同じ場合は、決定戦を一度行う。ただし、勝負が決しない場合は、抽選で順位を決定する。

※ 県の事情により、8名以下の出場になった場合は、3名でリーグ戦を行うグループができる。(グループ内で勝率が同じ場合は、上記に同じ。)

- ② 決勝トーナメント (予選リーグ上位2名、計16名)



※ 各グループ1位通過者より抽選を行う。(奇数番号に振り分け) 続いて、2位通過者が抽選を行う。(偶数番号に振り分け)

※ 抽選は、各グループ1位から順番に予備抽選を行い、その後本抽選を行う。各グループ2位についても同様とする。

その他

大会参加申込書提出後の選手の変更は認めない。